

北から南から

三陸復興道路 (仮称)吉浜高架橋で 連結式開催

(仮称)吉浜高架橋は、復興のリーディングプロジェクト。三陸沿岸道路国道45号吉浜道路に建設される橋梁です。三陸沿岸道路は平成23年3月11日に発生した東日本大震災後に「復興道路」として整備が進められています。この中で先行して着手した吉浜高架橋が、10月11日に連結式を迎えました。連結式は、大船渡市長をはじめ、地元の方々及び吉浜小学校、吉浜中学校の児童・生徒、施主である国土交通省、復興庁、岩手県、労働基準監督署、警察、消防及び工事関係者を含め総勢160名の参加をいただきました。盛大かつ和やかな式典になりました。戸田大船渡市長からは「震災から2年半。スピード感を持って工事が進められており被災地として感謝に堪えない」と、国や施工関係者の日ごろの労をねぎらって頂きました。



連結式

平成25年度大規模津波・ 地震防災総合訓練への参加

11月9日に国土交通省、茨城県、ひたちなか市、笠間市の主催で「大規模津波・地震防災総合訓練」が開催されました。
「大規模津波・地震防災総合訓練」は「スマトラ沖地震」の津波災害をきっかけに平成16年から始まり、今回は茨城県茨城港常陸那珂港区と、笠間芸術の森公園の2会場をメイン会場

として、防災関係154機関と地域住民が参加し、東日本大震災の教訓と合わせて、より実践的な訓練が展開されました。さらに、会場近くの国営ひたち海浜公園では、防災に携わる23機関による防災フェア(展示会)が行われました。
この中でPC建協関東支部は、図上で緊急車両等の通行・救援ルートを開く道路啓開訓練を行いました。
また、防災フェアでは津波対策人工地盤の模型展示などPC技術を活用した様々な取り組みを紹介しました。

その他の地域での取り組み状況

- 北陸支部：平成25年9月11日に北陸地方整備局との災害協定に基づき、防災訓練の一環としてFAXによる情報伝達訓練に参加。
- 中部支部：平成25年8月31日と9月1日に南海トラフ巨大地震対策中部ブロック協議会主催による防災訓練に参加。この訓練では、「南海トラフ巨大地震」に備えて「広域連携防災訓練」が実施されました。



救助訓練

動対応を円滑に行うため、関係機関との情報伝達等を実施。

第1回北陸橋梁保全会議 開催

平成25年11月11・12日に新潟グラントホテルで「第1回北陸橋梁保全会議」が開催されました。この会議は、PC建協北陸支部を含む「産官学」の14機関が連携し橋梁保全に関する蓄積した技術、特に地域特有の冬季風浪や凍結防止剤散布による塩害・腐食、アルカリ骨材反応等の損傷に関して、新技術の開発、品質確保・信頼性向上を目指し、それぞれ

の情報交換・発信の場として設立されました。

初日、西川和廣氏(橋梁調査会専務理事)による「道路橋の維持管理について」地方自治体がすべきこととできることをテーマに基調講演が行われ、2日目は、「橋梁の長寿命化について」(座長丸山久二氏(長岡技術科学大学環境・建設系教授))をテーマに5名のパネリストとパネルディスカッションが行われました。PC建協からは吉松慎哉保全補修部会長がパネリストとして参加しました。この会議には、企業、行政関係者、学識経験者など両日で延べ910名の参加者がありました。



挨拶(野田徹 北陸地方整備局長)



パネルディスカッションの様様

第22回PCシンポジウム ・懇親会開催

平成25年10月24・25日に静岡県コンベンションセンター(グランシップ)にて「第22回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム」(PC工学会主催・PC建協後援)が開催されました。両日に来賓・発表者・公聴者を合わせた500名を超える参加者となりました。PC建協では、PCプレス9月号で特集した橋梁部門の6点をポスター化し、ブース展示を行いました。

24日にホテルセンチュリー静岡で開催された懇親会には、海外からの来賓も参加し交流を図りました。

PC建協中部支部では、地元の名産品である桜エビのかき揚げ、静岡おでん、茶そば、地酒(利き酒)を屋台に揃え、赤い法被で「お・も・て・な・し」の気持ちを込めました。

海外や全国より参加された方々は、静岡の名産品に触れながら意見交換を行い講演と同様に有意義な時間となりました。



懇親会の様子



ブース出展

●四国支部：平成25年12月4日に四国地方整備局主催による「平成25年度四国地方整備局総合防災訓練」に参加。この訓練では、「南海トラフ巨大地震」を想定し、地震と津波に対する防災訓練の一環で災害情報伝達訓練を実施。
●九州支部：平成25年10月4日、沖縄総合事務局による地震と津波の初